

2024 年 12 月 7 日

発議者：日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部
2024 年度渉外幹事 牧野航平

宮の沢屋内競技場における電子標的設置 及びビーム競技用機材の購入に関する要望書の提出について

今年度、宮の沢屋内競技場への電子標的の設置、およびビーム競技用の購入に関し、札幌市スポーツ局と札幌スポーツ協会に要望書を提出しました。その件についてご報告いたします。

1. 件名

宮の沢屋内競技場における電子標的設置及びビーム競技用機材の購入に関する要望書提出

2. 日時

①・札幌市スポーツ局：

令和 6 年 2 月 29 日（木） 11：00～11：30

②・一財）札幌市スポーツ協会（宮の沢屋内競技場を介しての提出）：

令和 6 年 2 月 24 日（土） 12：00～12：15

3. 場所

①・札幌市スポーツ局 会議室

②・宮の沢屋内競技場

4. 参加者

①・札幌市スポーツ局

札幌市スポーツ局 スポーツ部施設課長 井上昭

同管理係長 工藤宏

同施設係長 廣瀬元彦

北海道ライフル射撃協会（以下「道ラ」）理事長 大川正視

同副理事長 佐藤公彦

日本学生ライフル射撃連盟北海道支部（以下「学連」）幹事長 赤坂美穂

同渉外幹事 牧野航平

②・札幌市スポーツ協会

宮の沢屋内競技場へ提出し、その後札幌スポーツ協会本部へお渡し
いただくよう要望した。

5. 活動内容

- ・要望書の提出
- ・質疑応答

6. 概要

冒頭に、学連赤坂幹事長から要望書を提出し、道ラ大川理事長から要望内容を説明。
要望書に記載していない追加説明として、約 10 年後に国民スポーツ大会(通称：国スポ)が
北海道で行われる予定であり、射撃競技の実施に電子標的が必要であることを説明した。

その後、以下のような質疑応答があった。(○札幌市、●道ラ)

○電子標的やビーム機材をはじめ、国体で使用する大会用具を都道府県で持つことはある
のか。

●都道府県で所有することは無い。施設に備わっているものを使用している。 宮の沢屋内
競技場は現在、個人の土地をお借りして建てているが、隣に幼稚園ができて駐車場が狭くな
るなどの問題が起こるなどしている。 射撃競技の他にも、テニスやフットサルなど他のス
ポーツも行われているため、いずれ建て替えや改修は必要になると考えられる。1 階には SB
射場があるが、施設構造の関係上 標的の裏に消防用のホースが通っており、本来なら消防
法違反となっている。(跳弾の恐れがあり危険なため。) 現在は標的の後ろにブロックを設置
することで跳弾を防いでいる が、この点も含め改修はいずれ必要となる。

○10 年ほど前に一度、改修・閉鎖も含め宮の沢屋内競技場の在り方を検討したことがあっ
た。しかし、屋内の複合競技場であること、他にライフル射撃の大会が実施できる射場が
無いことから、利用を継続するという結論となった。

●宮の沢屋内競技場がないと、国体(現国スポ)の予選ができず、北海道の選手が国体に出
場できなくなってしまう。10 年前当時は全国で 1 位を獲る選手も出ていた。

○宮の沢屋内競技場は、熊撃ちハンターなどの練習用としては使われないのか。

●ハンターの練習用としては用いられない。小樽や別の射場を用いる。 浦臼などにも射撃
場があるが、国体の練習用には向かない。競技としての練習をしっかりと 行うには、宮の沢
屋内競技場が最適である。 小樽にある射撃場では 22 口径の銃を撃つことができる。北
見、穂別などのように日ラに登録されている射撃場もあるが、釧路などのように登録されて
いない射撃場もある。

○要望書には「AR 射座 19 機」と書かれてあるが、一度に全て導入するとなると財政的にも苦しい。まずは 1 機からなど、少しずつそろえるといった形になっても良いか。

●電子標的は一台約 100 万円ととても高価であるため、一度に全て導入しなくてもよい。1 セットずつでも増やしていくのが良いのではないか。

○ビームライフル機材について、もし購入することとなった場合、BR や標的、プリンターなど一式全て揃える必要があるのか。それとも、どれか一部のみ新しくしても使用上は問題ないのか。

●一部のみを新しくしても使用することはできる。結果として銃、標的、プリンターなどが一式揃っていれば問題ない。ただ、先ほどの通り規格が古い機材もあるため、早いうちに新規で導入する必要がある。ビーム機材については、古いものを残して使用し続けていてもメンテナンスにコストがかかるため、新しいものを適宜導入していくことが望ましい。

○再度国体について確認だが、運営を北海道ではなく、札幌市が請け負うことはあるのか。

●本来、国体は北海道として運営する。役割分担として札幌市が担当する場合もある。

7. 今後の予定・展望

電的導入・ビーム機材に関しての導入は実現されるまでに継続的に要望書を提出しに行く必要があると考える。

同行した者としては、予算の関係上、電子標的の一括導入は非現実であること、ビーム機材は 2023 年度に新しく本体は導入いただいたこと、国スポの主幹が順当通りいけば 10 年以内には回ってくることを念頭に置いて、要望する内容については再検討する必要があると考える。

学連も毎年人事が変わるため、今後も同様に毎年 2 月頃、要望書を提出していく予定。

今後の詳細に関しては北海道ライフル射撃協会と連携を図っていく予定である。

8. おわりに

こちらの報告書は、日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部 2024 年幹事長 赤坂美穂様による議事録をもとに作成いたしました。

9. 参考資料

以下に、今年度提出した要望書を差し込んでおります。

令和 6 年 2 月 2 9 日

札幌市長

秋元 克広 様

一般財団法人札幌市スポーツ協会会長

生島 典明 様

北海道ライフル射撃協会

会長 山口 円

日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部

支部長 和泉 年昭

宮の沢屋内競技場における電子標的設置及びビーム競技用機材 の購入に関する要望書

標記の件につきまして、早急な対応をしていただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

記

1. 要望の趣旨

この度、北海道ライフル射撃協会及び日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部より、札幌市へ以下の2点を要望いたします。

(1) 宮の沢屋内競技場におけるライフル射撃用電子標的の設置

(2) 宮の沢屋内競技場におけるビームライフル(標的、プリンタ)、ビームピストル用機材の購入

2. 要望の理由

(1) ライフル射撃用電子標的の設置について

現在、宮の沢屋内競技場には、エアライフル用標的が2階に19射座、スモールボアライフル用標的が1階に26射座設置されています。いずれも紙標的用のものです。しかし、現在大会で適用されているISSF(国際射撃スポーツ連盟)の公式ルールによると、グレード3(※)以上の大会では、原則紙標的ではなく電子標的を用いることが定められています。

(※) グレード 3 の競技会…種目別またはブロック別に、競技力向上のために開催する競技会。北海道では、年 7 回宮の沢屋内競技場にて実施されている。

電子標的は標的に取り付けられた発光素子と光センサーまたは超音波センサーにより、標的面を通過する弾の通過位置を瞬時に検出・計算しモニターに表示するシステムです。選手は即座に弾着を確認できることはもちろんのこと、モニターの設置により観客も各選手の得点・順位変動が瞬時に分かるため、射撃競技がもつ究極の緊張感を楽しむことができます。現在宮の沢屋内競技場は平成元年のはまなす国体開催に合わせて整備され、その後、標的交換機などの設備は修繕や交換により維持されてきましたが、経年劣化により不具合を起こす機器も多く、早晚大規模な修繕や機器の入れ替えが必要になるものと推察されます。また、道内にあるエアライフルを撃つことができる日本ライフル射撃協会の公認射撃場は宮の沢屋内競技場以外なく、スモールボアライフルは小樽や浦臼、釧路に射撃場がありますが、数名しか射撃できず国体予選等を開催できる規模でもないため、宮の沢屋内競技場での機器更新が必要であると考えます。

また、これまでこの宮の沢屋内競技場で修練を積み、札幌市内の高校卒業後はナショナルチームに入り世界に羽ばたき活躍している選手や、国民体育大会など主要国内大会にて活躍する者、パラアスリートとしてワールドカップに出場している障がい者選手など、現に活躍している選手がおります。今後ますます射撃選手が活躍し、札幌市のスポーツ振興や共生社会の実現に寄与するためにも、設備の充実が必要なことと強く感じており、電子標的の設置を要望するものです。

(2) ビームライフル、ビームピストル用機材の購入について

ビームライフル、ビームピストルは、所持許可が必要ない光線銃で、それぞれエアライフルやエアピストルの所持許可が警察から下りるまでの間の導入や、競技の普及に用いられている銃です。

このたびビームライフルは新しいものを 2 丁導入いただきましたが標的や採点用プリンタは 2014 年のルール改正前のもので現行ルールには合致しておらず、大会で使用する際にも影響が現れています。(現行ルールでは小数点表示が必要ですが、宮の沢屋内競技場に備え付けられているディスプレイと標的は整数のみでしか表示がされません。) ビームピストルは施設からの貸し出しは無いため、大会や練習時は北海道ライフル射撃協会、学生連盟、北海道科学大学高校、大学が所有している自前のものを使用しており、広く使用できるものとはなっていません。

日本国内では銃刀法の制約があり射撃競技の普及活動が難しい中、許可のいないビームライフル、ビームピストルは競技普及のために必要不可欠なものとなっており、機材の購入を要望するものです。

3. 要望の詳細

今回要望する具体的な内容は以下の通りです。

- ・ 1 階スモールボアライフル用標的 10 機以上、2 階エアライフル用標的 19 機の電子標的化
- ・ ビームライフル (小数点对応標的、ディスプレイ、採点用プリンタ)、ビームピストル用機材数セットの購入。

4. 連絡先

- 北海道ライフル射撃協会 事務局長 加藤大輔
電話：011-823-4183 Mail: hra@herb.ocn.ne.jp
- 日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部 幹事長 赤坂美穂
Mail: mihomiho.aks.0802@gmail.com
- 日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部 渉外幹事 牧野航平
Mail: k4hu2e3i3@gmail.com
- 日本学生射撃スポーツ連盟北海道支部 渉外幹事 奥村涼
Mail: Okumura.ryo.m1@elms.hokudai.ac.jp

ご検討のほどよろしくお願いいたします。